

平成27年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

あら い とし あき
荒井 俊明 氏

(新潟県新発田市)

サル加害群テレメトリー調査による群れ管理による被害防除の確立、小型のサル捕獲檻の開発・普及を推進。

主な取組

- ・ 新発田市鳥獣被害防止対策協議会の立上げ当初から約13年にわたり、追い払い専門員として市内中山間地域をパトロールし、その豊富な知識と経験を活かし、サル加害群テレメトリー調査による「群れ管理による被害防除」を確立した。
- ・ 猟友会の会員としての実践活動から、一人でも移動可能な軽量かつ小型のサル捕獲檻を独自に開発し、これにより捕獲効率が格段に向上し、効果的な有害鳥獣捕獲方法の一層の推進を図った。
- ・ 同氏の対策技術は地域住民、地元猟友会はもとより県内、そして全国から高く評価され、これまで多くの講演会や視察の受入れを行い、対策技術の全国的な普及に努めてきた。
- ・ これらの広域的なサル被害防除対策について、その推進と技術向上、後継者育成によるサル被害の減少に貢献した。

平成27年度北陸農政局鳥獣被害対策優良活動表彰
受賞者の概要

北陸農政局長賞

せんぎく ゆうじ
千菊 裕二 氏

(石川県白山市)

多様な主体と連携したジビエの利活用推進と普及への積極的な取組。

主な取組

- ・ 自身で経営するレストランでの、イノシシやクマなどのジビエ料理の提供など、ジビエ料理人の第一人者として活躍。
- ・ イノシシの捕獲と利活用を促進するため、平成26年7月、料理関係者、狩猟関係者、行政などからなる獣肉の利活用に向けた「いしかわジビエ利用促進研究会」を県と連携し立ち上げ、本研究会の副会長として、課題解決に向け尽力。
- ・ ジビエの知識を活かし、イノシシの利活用を進めるため、県内初となる獣肉処理施設を開設し、白山市内の道の駅「瀬女」で県内初のイノシシ肉の精肉販売を開始。
- ・ 後発する県内他地域（羽咋市）での獣肉処理施設の稼働に当たり、イノシシの解体処理技術や衛生管理など獣肉処理施設の運営に必要な知識や技術を習得するための研修の受入れなど、ジビエ事業の推進に向け、商工会青年部などと連携しながら積極的に取り組んでいる。